5管以上の大編成& 特殊なボイシング



5管編成のコードボイシング①

■ クローズドボイシング(ダブル・リード)



■ テンションの組み込み





5管編成のコードボイシング②

■ドロップ2



■トップノートがテンションの場合





5管編成のコードボイシング③

■ドロップ2&4



■トップノートがテンションの場合





6管編成のコードボイシング

■ クローズドボイシング



■ オープンボイシング(オミット2)





8管編成のコードボイシング

8管編成では、ブラスとサックスがそれぞれ4本ずつ含まれる形が基本。したがって、8管編成のコードボイシングは、4管編成のボイシングをそのまま使用することが多い。

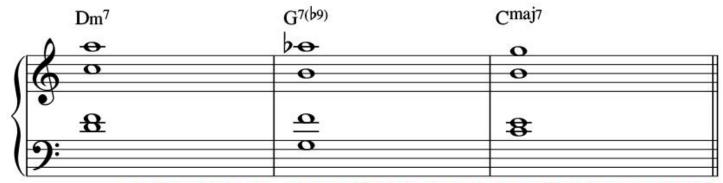
まずはブラスセクションで4ウェイクローズ、または4声のドロップ2を作り、サックスセクションはそれと全く同じ形で重ねるか、あるいはトップノートをずらした転回形で重ねることでボイシングが完成する。



特殊なコードボイシング①: スプレッド・ボイシング

和声学のバス課題のように下から音を積み上げるボイシング方法。基本は以下 の形になる。

- 一番下の声部はルートを演奏
- 内声は3rdと7thを演奏
- トップノートは5th、またはテンションを演奏



①一番下の声部はルート ②内声は3rdまたは7th ③トップノートは5thまたはテンションを演奏する



特殊なコードボイシング②: ボイシング・イン4th

3度ではなく4度の堆積でボイシングしたもの。作り方のルールは以下の通り。

- ルール1:コードスケールに沿ってトップノートから順に4度下の音を重ねる
- ルール2:アヴォイドノートが出てくる場合は、その部分のみ3度に変更
- ルール3:各声部間で短9度(b9)の音程が形成されることは避ける
- ルール4:ドミナントコードはトライントーン(3rd&7th)を必ず含める



